

大学番号 私立161

注3

設置年度 令和 2年度  
計画の区分： 学部の設置  
注1

認可

岐阜医療科学大学 薬学部 薬学科 (必要がある場合) ○○専攻  
注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人神野学園  
令和3年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局(課)名	IR室
職名・氏名	野末明宏
電話番号	0575-22-9401
(夜間)	0575-22-9401
e-mail	<a href="mailto:nozue@u-gifu-ms.ac.jp">nozue@u-gifu-ms.ac.jp</a>

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) ○○大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「○○大学」  
・学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「○○大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 薬学部

＜薬学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人神野学園

## (2) 大学名

岐阜医療科学大学

## (3) 調査対象大学等の位置

(薬学部：可児キャンパス)

〒509-0293

岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3

(関キャンパス)

〒501-3892

岐阜県関市市平賀字長峰795-1

(本部の位置)

〒461-0001

愛知県名古屋市中区泉1丁目23番37号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマダ ヒロユキ) 山田 弘幸 (平成26年4月1日)		
学長	(ヤマカ カズキ) 山岡 一清 (令和元年4月1日)		
学部長	(カセ ヒサミツ) 永瀬 久光 (令和2年4月1日)		
学科長等	(ウノ ブンジ) 宇野 文二 (令和2年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
薬学部 薬学科 学士（薬学）	薬学関係	6年	100人	年次 0人	600人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	100人 100 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	100人 100 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	0.78倍	-1倍		
志願者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	271 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	460 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
受験者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	261 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	448 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
合格者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	205 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	364 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
B 入学者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	79 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	78 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]				
入学定員超過率 B/A	-		-		-		0.79		0.78					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次							78 [ 0 ] ( 0 )	- [ - ] ( - )	79 [ 0 ] ( 1 )	- [ - ] ( - )	
2年次							- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	77 [ 0 ] ( 0 )	- [ - ] ( - )	
3年次							- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
4年次							- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
計							78 [ 0 ] ( 0 )		156 [ 0 ] ( 1 )		

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	79人	1人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	就学意欲の低下
令和3年度	156人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{79} = \boxed{1.26} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{156} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数					専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	専修	必修	選択	専修	専修	専修	専修			
薬学専門科目	早期体験学習	1前	1				3	2	1					
	緊急処置法	1前	1				1							
	フィジカルアセスメント論	3前	1				3	2						
	フィジカルアセスメント演習	3後	1				3	2						
	チーム医療演習	6前	1				2	1						兼9
	実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3				4	2	1					
	実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3				4	2	1					
	薬局実務実習	5通	10				4	2	1					
	病院実務実習	5通	10				4	2	1					
	臨床薬学演習	6前	1				3	2	1					
	在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1							兼2
	災害薬学	6前	1		1									兼2
	総合薬学特論Ⅰ	6前	1				7	1						
	総合薬学特論Ⅱ	6前	1				1	1	1					兼1
	総合薬学特論Ⅲ	6前	1				5	3						
	総合薬学特論Ⅳ	6前	1				3	2	1					
	総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5				11	4						
	特別研究Ⅰ	4通	2				13	2						
	特別研究Ⅱ	5通	2				13	2						
	特別研究Ⅲ	6通	2				13	2						
小計(65科目)		—	96.0	8.0	0	15	8	4	1	3				兼24
合計(144科目)			199.5	9	0	16	10	5	3	2				兼54

卒業要件及び履修方法

卒業要件として、必修科目177.0単位(薬学準備科目16.0単位/自然科学7.0単位/コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位)、(薬学基本科目18.0単位/基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位)、(薬学専門基礎科目45.5単位/薬学基礎(物理)18.5単位・薬学基礎(化学)18.0単位・薬学基礎(生体)18.0単位)、(薬学専門科目17.0単位/衛生学6.0単位・疫学薬学4.4単位・薬学演習3.0単位・薬学実習0.1単位)、選択科目9.5単位以上(薬学準備科目5.5単位以上/コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上)、(薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上)、計186.5単位以上修得すること。(履修科目の上限:46単位(年間))

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数					専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	専修	必修	選択	専修	専修	専修	専修			
薬学専門科目	早期体験学習	1前	1				3	2	1					
	緊急処置法	1前	1				1							
	フィジカルアセスメント論	3前	1				3	2						
	フィジカルアセスメント演習	3後	1				3	2						
	チーム医療演習	6前	1				2	1						兼9
	実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3				4	2	1					
	実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3				4	2	1					
	薬局実務実習	5通	10				4	2	1					
	病院実務実習	5通	10				4	2	1					
	臨床薬学演習	6前	1				3	2	1					
	在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1							兼2
	災害薬学	6前	1		1									兼2
	総合薬学特論Ⅰ	6前	1				7	1						
	総合薬学特論Ⅱ	6前	1				1	1	1					兼1
	総合薬学特論Ⅲ	6前	1				5	3						
	総合薬学特論Ⅳ	6前	1				3	2	1					
	総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5				11	4						
	特別研究Ⅰ	4通	2				13	2						
	特別研究Ⅱ	5通	2				13	2						
	特別研究Ⅲ	6通	2				13	2						
小計(65科目)		—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3				兼24
合計(144科目)			197.0	18.5	0	16	10	5	3	2				兼54

卒業要件及び履修方法

卒業要件として、必修科目177.0単位(薬学準備科目16.0単位/自然科学7.0単位/コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位)、(薬学基本科目18.0単位/基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位)、(薬学専門基礎科目45.5単位/薬学基礎(物理)18.5単位・薬学基礎(化学)18.0単位・薬学基礎(生体)18.0単位)、(薬学専門科目17.5単位/衛生学6.0単位・疫学薬学4.4単位・薬学演習3.0単位・薬学実習0.1単位)、選択科目9.5単位以上(薬学準備科目5.5単位以上/コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上)、(薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上)、計186.5単位以上修得すること。(履修科目の上限:46単位(年間))

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数					専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	専修	必修	選択	専修	専修	専修	専修			
薬学準備科目	化学	1前	1				1							
	物理学	1前	1				1							
	生物学	1前	1				1							
	数学	1前	1				1							兼1
	情報処理	1前	1											兼2
	統計学	1後	1											兼1
	薬学基礎実習	1後	1				5	4	1	2	1			
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5				1	4	1					
	コミュニケーションワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5											兼2
	コミュニケーションワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5											兼2
	アカデミック技法	1後	0.5				1							
	ボランティア技法	1前												兼1
	手話技法	2前	0.5											兼1
	心理学	2前	1											兼1
	社会慣習・マナー技法	1前	0.5											兼1
	経済学	1前	1											兼1
	法学	2前	1											兼1
	教育学	1後	1											兼1
	健康スポーツ実技	1前	1											兼1
	薬学基本科目	基礎英語	1前	1										
英語Ⅰ		1後	1											
英語Ⅱ		2前	1											兼1
英語Ⅲ		2後	1											兼1
英会話Ⅰ		2後	1											兼1
英会話Ⅱ		3前	1											兼1
ドイツ語		1後	1											兼1
韓国語		1前	1											兼1
ポルトガル語		3後	1											兼1
中国語		2後	1											兼1
小計(30科目)			—	16	10	0	5	6	2	1	1			兼30
薬学概論		1前	1.5				4	2						
チーム医療論		1前	1				3	2						兼4
倫理学		1前	1.5											兼1
生命倫理学		1後	1.5											兼1
医学概論		1前	1				3	3						兼4
薬学入門		1前	1				5	3						
医療コミュニケーションⅠ		1後	1											兼1
医療コミュニケーションⅡ		4後	1				1							兼1
薬学基礎セミナー		1後	1.5				3	3						
薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1								
薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1								
医療経済・制度論	3前	1.5											兼1	
地域診療薬学	3前	1.5				1	1						兼1	
薬局経営論	6前	1											兼3	
実践社会薬学	6後	1											兼8	
小計(15科目)		—	18	1	0	11	5	1	0	0				兼15
薬学専門基礎科目	物理化学Ⅰ	1後	1.5				1							
	物理化学Ⅱ	2前	1.5				1							
	分析化学Ⅰ	1後	1.5				1							
	分析化学Ⅱ	2前	1.5				1							
	機器分析化学	3前	1.5				1							
	物理系実習	2後	1				2							1
	物理系薬学演習	2後	1				2							1
	無機化学	1後	1				1							
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1							
	有機化学Ⅱ	2前	1.5				1							
	有機化学Ⅲ	2後	1.5				1							
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1							
	生体有機化学	3前	1				1							
	有機構造解析学	2後	1.5				1							
	化学系実習	3前	1				1	1						1
	化学系薬学演習	3前	1				1	1						1
	生薬学	1後	1.5				1							
	天然物薬品化学	3前	1.5				1							
	薬用植物学	1前	1.5				1							
	生薬学実習	2前	1				1							1
生薬学演習	2前	1				1							1	
薬学専門科目	機能形態学Ⅰ	1前	1.5				1	1						
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5				1	1						
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5				1	1						
	生化学Ⅰ	1後	1.5				1	1						
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1	1						
	分子生物学	2前	1.5				2							
	細胞生物学	2後	1.5				1</							



【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼務		
			必修	選択	自由	専任	准専任	助教	助手	その他			
薬学専攻	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1	1						
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1						
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1						
	薬理系実習	3前	1			1	1	1			1		
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1					
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5			1	1						
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5			1	1						
	薬物動態学実習	3後	1			1	1				2		
	薬物動態学演習	4前	1			1	1				1		
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5			1	1						
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1						
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1						
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3	3						
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2						
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3	3						
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1					
	器性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1						
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3						
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1					
	医薬品情報学	3後	1.5			2	2						
	臨床統計解析学	3後	1.5									兼1	
	医療情報系薬学演習	4前	1				2						
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1	1						
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1	1						
	座談学	6前	1.5			3	2						
	臨床薬理学	4後	1.5			2	2						
	漢方の基礎	3前	1			1	1						
	漢方薬学	3後	1.5									兼1	
	放射線検査医学総論	3前	1.5									兼7	
	臨床検査医学総論	3後	1.5									兼7	
	病態情報解析学	4前	1			1	1						
	処方解析演習	6前	1			2	2						
	香粧品学	6前		1								兼1	
	鍼灸治療論	6前		1		1	1						
	創薬化学特論	6前		1								兼1	
	医薬品開発概論	6前		1		1	1					兼1	
	地域健康サポート演習	4前	1			2	2					兼1	
	医薬品副作用学	6前		1.5								兼1	
	早期体験学習	1前	1			3	2	1					
	救急処置法	1前	1			1	1						
	フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2						
	フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2						
	チーム医療演習	6前	1			2	1					兼9	
	実務実習プレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1					
実務実習プレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1						
薬局実務実習	5通	10			4	2	1						
病院長務実習	5通	10			4	2	1						
臨床薬学演習	6前	1			3	2	1						
在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5			1	1					兼2		
災害薬学	6前		1								兼2		
総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1							
総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1						
総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3					兼1		
総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1						
総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4							
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2							
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2							
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2							
小計(必修科目)			177.0	18.5	0	15	8	4	1	3	兼24		
合計(144科目)						177.0	18.5	0	16	10	5	3	兼54

- 卒業要件及び履修方法
- 卒業要件として、必修科目177.0単位(薬学専攻科目18.0単位/自然科学7.0単位/コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位)、(薬学基本科目18.0単位/基本事項9.5単位・薬学と社会9.5単位)、(薬学専門基礎科目4.5単位/薬学基礎(物理)9.5単位・薬学基礎(化学)18.0単位・薬学基礎(生物)18.0単位)、(薬学専門科目37.5単位/衛生薬学0単位・薬学薬学4.4単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究0単位)、  
 選択科目9.5単位以上(薬学専攻科目5.5単位以上/コミュニケーション1.5単位以上/社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上)、(薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上)、計186.5単位以上履修すること。  
 (履修科目の上限:46単位(年間))
- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を  
 欄で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。  
 (2つの表が1ページに告示されるようにしてください)。  
 ・ 専門職大学等の場合、「実務」実習又は実務による授業科目には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、  
 「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和2年度】**

変更なし。

**【令和3年度】**

専任教員の赴任が令和3年4月から令和4年4月となったことから、「薬理学Ⅰ」の専任教員の配置を「講師Ⅰ」から「講師0」に変更。なお、本講師の担当部分は、本科目の教授が担当することとする。(令和2年9月AC教員審査受審済)

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(記当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
124 科目	20 科目	0 科目	144 科目	124 科目 [ - ]	20 科目 [ - ]	0 科目 [ - ]	144 科目 [ - ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{144} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	(例) 校舎敷地と別地 (徒歩〇分)			
	校舎敷地	65,616.54㎡	— ㎡	— ㎡	65,616.54㎡				
	運動場用地	15,564.00㎡	— ㎡	— ㎡	15,564.00㎡				
	小 計	81,180.54㎡	— ㎡	— ㎡	81,180.54㎡				
	そ の 他	146,371.06㎡	— ㎡	— ㎡	146,371.06㎡				
	合 計	227,551.60㎡	— ㎡	— ㎡	227,551.60㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	〇〇短期大学と共用				
	32,514.60㎡ (32,514.60㎡)	— ㎡ ( — ㎡)	— ㎡ ( — ㎡)	32,514.60㎡ (32,514.60㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	36室	16室	54室	4室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	薬学部 薬学科		30 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	外国書の完成年度冊数増加は、内容を英語多読用の安価なものとして冊数を増やしたため、予算金額は変わらない(3)	
	薬学部	4,305- <del>[400]</del> [558] ( 3,960 [458] )	38 [8] ( 38 [ 8 ] )	7 [7] ( 7 [ 7 ] )	60 ( 31 )	4,255 (4,255)	0 (0)		
	計	4,305- <del>[400]</del> [558] ( 3,960 [458] )	38 [8] ( 38 [ 8 ] )	7 [7] ( 7 [ 7 ] )	60 ( 31 )	4,255 (4,255)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	2,176.73㎡		252		170,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,783.08㎡		テニスコート2面、屋外バスケットコート1面		体育室2部屋				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	600千円	600千円	図書購入費	34,053千円	16,004千円	19,690千円	
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	992,243千円	12,434千円	32,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		2,150円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、補助活動収入、寄付金、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	岐阜医療科学大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
看護学部						1.06	1.03	平成30年度	平成30年度	岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3	平成30年4月学生募集停止
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.06	1.03	平成30年度	平成30年度	同上	
保健科学部						1.08	1.14	平成29年度	平成18年度	岐阜県関門市平賀字長峰795-1	
臨床検査学科	4	90	-	360	学士(保健学)	1.02	1.03		平成18年度	同上	
放射線技術学科	4	90	-	360	学士(保健学)	1.14	1.25		平成18年度	同上	
看護学科	4	-	-	0	学士(看護学)	-	-	-	平成18年度	同上	
薬学部						0.78	0.78				
薬学科	6	100	-	200	学士(薬学)	0.78	0.78	-	令和2年度	岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3	
大学全体	-	380	-	1,320	-	1.04	1.01	-	-	-	
保健医療学研究科										岐阜県関門市平賀字長峰795-1	
保健医療学専攻	2	9	-	18	修士(保健医療学)	0.66	0.77	-	平成28年度	同上	
大学院全体	2	9	-	18		0.66	0.77	-	-	-	
大学の名称	中日本自動車短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
自動車工学科	2	200	-	400	短期大学士(自動車工学)	1.14	1.24		昭和42年度	岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301	
モータースポーツエンジニアリング学科	3	30	-	90	短期大学士(自動車工学)	0.99	1.13		平成21年度	同上	
大学全体	-	230	-	490	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください  
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、收容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学部 薬学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	宇野 文二 (64) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (64) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (65) <令和2年4月>
		分析化学 I 分析化学 II 機器分析化学 物理系実習 物理系薬学演習 有機構造解析学 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			分析化学 I 分析化学 II 機器分析化学 物理系実習 物理系薬学演習 有機構造解析学 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			分析化学 I 分析化学 II 機器分析化学 物理系実習 物理系薬学演習 有機構造解析学 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
		伊藤 哲朗 (47) <令和2年4月>			伊藤 哲朗 (47) <令和2年4月>			伊藤 哲朗 (48) <令和2年4月>
		薬学基礎実習 薬学入門 生薬学 天然物薬品化学 薬用植物学 生薬学実習 生薬学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			薬学基礎実習 薬学入門 生薬学 天然物薬品化学 薬用植物学 生薬学実習 生薬学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			薬学基礎実習 薬学入門 生薬学 天然物薬品化学 薬用植物学 生薬学実習 生薬学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
専	教授	稲垣 直樹 (64) <令和2年4月>	専	教授	稲垣 直樹 (64) <令和2年4月>	専	教授	稲垣 直樹 (65) <令和2年4月>
		薬学概論 薬学基礎セミナー 薬理学 I 薬理学 II 薬理学 III 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学 IV 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			薬学概論 薬学基礎セミナー 薬理学 I 薬理学 II 薬理学 III 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学 IV 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			薬学概論 薬学基礎セミナー 薬理学 I 薬理学 II 薬理学 III 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学 IV 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
		金子 葉子 (55) <令和2年4月>			金子 葉子 (55) <令和2年4月>			金子 葉子 (56) <令和2年4月>
		生物学 薬学基礎実習 機能形態学 I 機能形態学 II 機能形態学 III 分子生物学 生物系実習 生物系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			生物学 薬学基礎実習 機能形態学 I 機能形態学 II 機能形態学 III 分子生物学 生物系実習 生物系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			生物学 薬学基礎実習 機能形態学 I 機能形態学 II 機能形態学 III 分子生物学 生物系実習 生物系薬学演習 病態薬物治療学 II 病態薬物治療学演習 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
専	教授	笹井 泰志 (44) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (44) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (45) <令和2年4月>
		物理学 物理化学 I 物理化学 II 物理系実習 物理系薬学演習 製剤学 I 製剤学 II 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			物理学 物理化学 I 物理化学 II 物理系実習 物理系薬学演習 製剤学 I 製剤学 II 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III			物理学 物理化学 I 物理化学 II 物理系実習 物理系薬学演習 製剤学 I 製剤学 II 総合薬学特論 I 総合薬学特論 III 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	杉山 剛志 (55) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 薬学基礎セミナー 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅱ 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	宗林 さおり (62) <令和3年4月>	食品化学と健康 サプリメント概論 セルフメディケーション論
専	教授	田中 邦彦 (53) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅴ 病態薬物治療学演習 病態情報解析学 救急処置法 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 総合薬学特論Ⅲ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	永瀬 久光 (67) <令和2年4月>	薬学概論 公衆衛生学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	野下 俊朗 (54) <令和2年4月>	化学 薬学基礎実習 薬学入門 無機化学 有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ 生体有機化学 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	松原 守 (54) <令和2年4月>	薬学基礎実習 生化学Ⅰ 分子生物学 細胞生物学 生物系実習 生物系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	山岡 一清 (68) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	杉山 剛志 (55) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 薬学基礎セミナー 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅱ 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	宗林 さおり (62) <令和3年4月>	食品化学と健康 サプリメント概論 セルフメディケーション論
専	教授	田中 邦彦 (53) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅴ 病態薬物治療学演習 病態情報解析学 救急処置法 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 総合薬学特論Ⅲ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	永瀬 久光 (67) <令和2年4月>	薬学概論 公衆衛生学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	野下 俊朗 (54) <令和2年4月>	化学 薬学基礎実習 薬学入門 無機化学 有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ 生体有機化学 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	松原 守 (54) <令和2年4月>	薬学基礎実習 生化学Ⅰ 分子生物学 細胞生物学 生物系実習 生物系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	山岡 一清 (68) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	杉山 剛志 (56) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 薬学基礎セミナー 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅰ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅱ 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	宗林 さおり (63) <令和3年10月>	食品化学と健康 サプリメント概論 セルフメディケーション論
専	教授	田中 邦彦 (53) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅱ 病態薬物治療学Ⅲ 病態薬物治療学Ⅳ 病態薬物治療学Ⅴ 病態薬物治療学演習 病態情報解析学 救急処置法 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 総合薬学特論Ⅲ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	永瀬 久光 (68) <令和2年4月>	薬学概論 公衆衛生学 衛生化学Ⅰ 衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	野下 俊朗 (55) <令和2年4月>	化学 薬学基礎実習 薬学入門 無機化学 有機化学Ⅱ 有機化学Ⅲ 生体有機化学 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	松原 守 (55) <令和2年4月>	薬学基礎実習 生化学Ⅰ 分子生物学 細胞生物学 生物系実習 生物系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ 総合薬学特論Ⅴ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ
専	教授	山岡 一清 (69) <令和2年4月>	チーム医療論 医学概論

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	岩城 壮一郎 (45) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習
専	准教授	小畑 孝二 (48) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー アカデミック技法 機能形態学Ⅰ 機能形態学Ⅱ 機能形態学Ⅲ
専	准教授	高 轟 坤 (48) <令和2年4月>	中国語 漢方の基礎 鍼灸治療論
専	准教授	世戸 孝樹 (36) <令和2年4月>	薬物動態学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習 薬物動態学演習 総合薬学特論Ⅲ※ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	瀧武 通子 (61) <令和2年4月>	薬学概論 薬学基礎セミナー 薬事関係法規Ⅰ 薬事関係法規Ⅱ 公衆衛生学 衛生系薬学演習 セルフメディケーション論 医薬品情報学 医療情報系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	松井 敦聡 (46) <令和2年4月>	アカデミック基礎セミナー 薬学入門 薬学基礎セミナー 薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅲ
専	准教授	萬代 大樹 (42) <令和2年4月>	薬学基礎実習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅳ 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ
専	准教授	村上 泰介 (41) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅰ 感染症治療学Ⅱ 病態薬物治療学演習
専	講師	井戸(中島) 章子 (45) <令和3年4月>	衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
専	講師	所 俊志 (39) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 生物系実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	岩城 壮一郎 (45) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習
専	准教授	小畑 孝二 (48) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー アカデミック技法 機能形態学Ⅰ 機能形態学Ⅱ 機能形態学Ⅲ
専	准教授	高 轟 坤 (48) <令和2年4月>	中国語 漢方の基礎 鍼灸治療論
専	准教授	世戸 孝樹 (36) <令和2年4月>	薬物動態学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習 薬物動態学演習 総合薬学特論Ⅲ※ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	瀧武 通子 (61) <令和2年4月>	薬学概論 薬学基礎セミナー 薬事関係法規Ⅰ 薬事関係法規Ⅱ 公衆衛生学 衛生系薬学演習 セルフメディケーション論 医薬品情報学 医療情報系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	松井 敦聡 (46) <令和2年4月>	アカデミック基礎セミナー 薬学入門 薬学基礎セミナー 薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅲ
専	准教授	萬代 大樹 (42) <令和2年4月>	薬学基礎実習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅳ 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ
専	准教授	村上 泰介 (41) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅰ 感染症治療学Ⅱ 病態薬物治療学演習
専	講師	井戸(中島) 章子 (45) <令和3年4月>	衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
専	講師	所 俊志 (39) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 生物系実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	岩城 壮一郎 (46) <令和2年4月>	薬学基礎実習 薬学入門 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習
専	准教授	小畑 孝二 (48) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー アカデミック技法 機能形態学Ⅰ 機能形態学Ⅱ 機能形態学Ⅲ
専	准教授	高 轟 坤 (50) <令和2年4月>	中国語 漢方の基礎 鍼灸治療論
専	准教授	世戸 孝樹 (37) <令和2年4月>	薬物動態学Ⅰ 薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習 薬物動態学演習 総合薬学特論Ⅲ※ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	瀧武 通子 (62) <令和2年4月>	薬学概論 薬学基礎セミナー 薬事関係法規Ⅰ 薬事関係法規Ⅱ 公衆衛生学 衛生系薬学演習 セルフメディケーション論 医薬品情報学 医療情報系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ 総合薬学特論Ⅴ
専	准教授	松井 敦聡 (47) <令和2年4月>	アカデミック基礎セミナー 薬学入門 薬学基礎セミナー 薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学Ⅰ 病態薬物治療学Ⅲ
専	准教授	萬代 大樹 (43) <令和2年4月>	薬学基礎実習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅳ 化学系実習 化学系薬学演習 総合薬学特論Ⅰ
専	准教授	村上 泰介 (42) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 微生物学Ⅱ 免疫学Ⅱ 生物系実習 生物系薬学演習 感染症治療学Ⅰ 感染症治療学Ⅱ 病態薬物治療学演習
専	講師	井戸(中島) 章子 (46) <令和3年4月>	衛生化学Ⅱ 衛生系実習 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
専	講師	所 俊志 (40) <令和2年4月>	薬学基礎実習 アカデミック基礎セミナー 生物系実習



【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 麻美 (44) <令和2年4月>
		基礎英語 英語 I 英会話 I 英会話 II
専	講師	吉岡 弘毅 (34) <令和3年4月>
		薬理学 I 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 V
専	助教	磯野 蒼 (29) <令和2年4月>
		物理化学 II 物理系実習
専	助教	小縣 綾 (33) <令和2年4月>
		化学 薬学基礎実習 化学系実習 化学系薬学演習
専	助教	深谷 匡 (30) <令和2年4月>
		薬学基礎実習 天然物薬品化学 生薬学実習 生薬学演習
専	教授	梅村 雅之 (54) <令和2年4月>
		薬学入門 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 IV 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
専	教授	重山 昌人 (63) <令和2年4月>
		チーム医療論 医学概論 薬学入門 病態薬物治療学 IV 悪性腫瘍治療学 病態薬物治療学演習 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 地域健康サポート演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 III 総合薬学特論 IV 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 麻美 (44) <令和2年4月>
		基礎英語 英語 I 英会話 I 英会話 II
専	講師	吉岡 弘毅 (34) <令和3年4月>
		薬理学 I 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 V
専	助教	磯野 蒼 (29) <令和2年4月>
		物理化学 II 物理系実習
専	助教	小縣 綾 (34) <令和2年4月>
		化学 薬学基礎実習 化学系実習 化学系薬学演習
専	助教	深谷 匡 (30) <令和2年4月>
		薬学基礎実習 天然物薬品化学 生薬学実習 生薬学演習
専	教授	梅村 雅之 (54) <令和2年4月>
		薬学入門 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 IV 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
専	教授	重山 昌人 (63) <令和2年4月>
		チーム医療論 医学概論 薬学入門 病態薬物治療学 IV 悪性腫瘍治療学 病態薬物治療学演習 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 地域健康サポート演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 III 総合薬学特論 IV 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	中山 麻美 (45) <令和2年4月>
		基礎英語 英語 I 英会話 I 英会話 II
専	講師	吉岡 弘毅 (35) <令和4年4月>
		薬理学 I 薬理系実習 薬理系薬学演習 病態薬物治療学 V
専	助教	磯野 蒼 (30) <令和2年4月>
		物理化学 II 物理系実習
専	助教	小縣 綾 (35) <令和2年4月>
		化学 薬学基礎実習 化学系実習 化学系薬学演習
専	助教	深谷 匡 (31) <令和2年4月>
		薬学基礎実習 天然物薬品化学 生薬学実習 生薬学演習
専	教授	梅村 雅之 (55) <令和2年4月>
		薬学入門 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 IV 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III
専	教授	重山 昌人 (64) <令和2年4月>
		チーム医療論 医学概論 薬学入門 病態薬物治療学 IV 悪性腫瘍治療学 病態薬物治療学演習 症候学 臨床薬理学 処方解析演習 地域健康サポート演習 早期体験学習 フィジカルアセスメント論 フィジカルアセスメント演習 チーム医療演習 実務実習プレ教育 I 実務実習プレ教育 II 薬局実務実習 病院実務実習 臨床薬学演習 総合薬学特論 III 総合薬学特論 IV 総合薬学特論 V 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		谷澤 克弥 (61) <令和2年4月>
		地域診療薬学
		病態薬物治療学Ⅲ
		悪性腫瘍治療学
		病態薬物治療学演習
		医薬品情報学
		医療情報系薬学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 准教授		西村 英尚 (53) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学入門
		薬学基礎セミナー
		病態薬物治療学Ⅴ
		病態薬物治療学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
チーム医療演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
在宅・地域医療薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 教授		安田 公夫 (71) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学基礎セミナー
		症候学
		地域健康サポート演習
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
総合薬学特論Ⅳ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 講師		仲山 千佳 (39) <令和2年4月>
		医療コミュニケーションⅠ
		医療コミュニケーションⅡ
		地域診療薬学
		セルフメディケーション論
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
		総合薬学特論Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		谷澤 克弥 (61) <令和2年4月>
		地域診療薬学
		病態薬物治療学Ⅲ
		悪性腫瘍治療学
		病態薬物治療学演習
		医薬品情報学
		医療情報系薬学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 准教授		西村 英尚 (53) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学入門
		薬学基礎セミナー
		病態薬物治療学Ⅴ
		病態薬物治療学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
チーム医療演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
在宅・地域医療薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 教授		安田 公夫 (71) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学基礎セミナー
		症候学
		地域健康サポート演習
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
総合薬学特論Ⅳ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 講師		仲山 千佳 (40) <令和2年4月>
		医療コミュニケーションⅠ
		医療コミュニケーションⅡ
		地域診療薬学
		セルフメディケーション論
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
		総合薬学特論Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 准教授		谷澤 克弥 (62) <令和2年4月>
		地域診療薬学
		病態薬物治療学Ⅲ
		悪性腫瘍治療学
		病態薬物治療学演習
		医薬品情報学
		医療情報系薬学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 准教授		西村 英尚 (54) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学入門
		薬学基礎セミナー
		病態薬物治療学Ⅴ
		病態薬物治療学演習
		症候学
		臨床薬理学
		処方解析演習
		早期体験学習
		フィジカルアセスメント論
フィジカルアセスメント演習		
チーム医療演習		
実務実習ブレ教育Ⅰ		
実務実習ブレ教育Ⅱ		
薬局実務実習		
病院実務実習		
臨床薬学演習		
在宅・地域医療薬学演習		
総合薬学特論Ⅲ		
総合薬学特論Ⅳ		
総合薬学特論Ⅴ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 教授		安田 公夫 (72) <令和2年4月>
		アカデミック基礎セミナー
		薬学概論
		薬学基礎セミナー
		症候学
		地域健康サポート演習
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
総合薬学特論Ⅳ		
特別研究Ⅰ		
特別研究Ⅱ		
特別研究Ⅲ		
専 講師		仲山 千佳 (41) <令和2年4月>
		医療コミュニケーションⅠ
		医療コミュニケーションⅡ
		地域診療薬学
		セルフメディケーション論
		早期体験学習
		実務実習ブレ教育Ⅰ
		実務実習ブレ教育Ⅱ
		薬局実務実習
		病院実務実習
		臨床薬学演習
		総合薬学特論Ⅳ

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	森 博美 (65) ＜令和2年4月＞ 薬学概論 実務実習ブレ教育Ⅰ 実務実習ブレ教育Ⅱ 病院実務実習 薬局実務実習
兼任	教授	片淵 哲朗 (64) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	唐沢 泉 (63) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論
兼任	教授	國島 伸治 (63) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	近藤 裕二 (65) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論
兼任	教授	杉浦 浩子 (58) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	中山 章文 (59) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 チーム医療演習
兼任	教授	丹羽 政美 (63) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	葉袋 淳子 (56) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
兼任	准教授	赤堀 克己 (54) ＜令和2年4月＞ 数学 統計学
兼任	准教授	榎田 雄大 (48) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	准教授	篠原 範充 (49) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	下郷 智弘 (48) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	教授	西出 裕子 (61) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	准教授	八田 武俊 (45) ＜令和2年4月＞ 情報処理 心理学
兼任	准教授	服部 高幸 (52) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	三嶋 智之 (44) ＜令和3年4月＞ 食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
兼任	准教授	水谷 さおり (57) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	山内 浩司 (50) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	准教授	吉田 貴博 (44) ＜令和2年4月＞ 情報処理
兼任	講師	石井 美枝 (58) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	講師	加藤 太喜子 (47) ＜令和2年4月＞ 倫理学 生命倫理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	森 博美 (65) ＜令和2年4月＞ 薬学概論 実務実習ブレ教育Ⅰ 実務実習ブレ教育Ⅱ 病院実務実習 薬局実務実習
兼任	教授	片淵 哲朗 (64) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	唐沢 泉 (63) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論
兼任	教授	國島 伸治 (63) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	近藤 裕二 (65) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論
兼任	教授	杉浦 浩子 (58) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	中山 章文 (59) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 チーム医療演習
兼任	教授	丹羽 政美 (63) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	葉袋 淳子 (56) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
兼任	准教授	赤堀 克己 (54) ＜令和2年4月＞ 数学 統計学
兼任	准教授	榎田 雄大 (48) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	教授	篠原 範充 (49) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	下郷 智弘 (48) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	教授	西出 裕子 (61) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	准教授	八田 武俊 (45) ＜令和2年4月＞ 情報処理 心理学
兼任	准教授	服部 高幸 (52) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	三嶋 智之 (44) ＜令和3年4月＞ 食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
兼任	准教授	水谷 さおり (57) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	山内 浩司 (50) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	吉田 貴博 (44) ＜令和2年4月＞ 情報処理
兼任	講師	石井 美枝 (58) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	講師	加藤 太喜子 (47) ＜令和2年4月＞ 倫理学 生命倫理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	森 博美 (66) ＜令和2年4月＞ 薬学概論 実務実習ブレ教育Ⅰ 実務実習ブレ教育Ⅱ 病院実務実習 薬局実務実習
兼任	教授	片淵 哲朗 (65) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	唐沢 泉 (64) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論
兼任	教授	國島 伸治 (64) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	杉浦 浩子 (59) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	中山 章文 (60) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 チーム医療演習
兼任	教授	丹羽 政美 (64) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療論 医学概論
兼任	教授	葉袋 淳子 (57) ＜令和2年4月＞ チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
兼任	准教授	赤堀 克己 (55) ＜令和2年4月＞ 数学 統計学
兼任	准教授	榎田 雄大 (49) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	教授	篠原 範充 (50) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	教授	下郷 智弘 (49) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任	教授	西出 裕子 (62) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	准教授	八田 武俊 (46) ＜令和2年4月＞ 情報処理 心理学
兼任	准教授	服部 高幸 (53) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	三嶋 智之 (45) ＜令和3年4月＞ 食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
兼任	准教授	水谷 さおり (58) ＜令和7年4月＞ チーム医療演習
兼任	准教授	山内 浩司 (51) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	教授	吉田 貴博 (45) ＜令和2年4月＞ 情報処理
兼任	講師	石井 美枝 (59) ＜令和4年4月＞ 放射線検査医学総論
兼任	准教授	加藤 太喜子 (48) ＜令和2年4月＞ 倫理学 生命倫理学

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 助教	福澤 大樹 (36) <令和5年4月>	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習
兼任 教授	三谷 智子 (66) <令和7年4月>	災害薬学
兼任 講師	有川 幸孝 (67) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	磯村 尚弘 (44) <令和2年4月>	ドイツ語
兼任 講師	井上紳太郎 (72) <令和7年4月>	香粧品学
兼任 講師	井深 宏和 (54) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	梅本 大介 (36) <令和2年4月>	教育学
兼任 講師	衛 紀生 (74) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ※ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ※
兼任 講師	大橋 哲也 (64) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	大脇 弘之 (69) <令和7年4月>	創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任 講師	岡本 秀範 (70) <令和3年4月>	英語Ⅲ
兼任 講師	小川 久 (64) <令和2年4月>	健康スポーツ実技
兼任 講師	菅野 進 (74) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	北村 隆幸 (39) <令和2年4月>	ポランテア技法
兼任 講師	坂江 レアンドロ ユウキ (39) <令和4年4月>	ポルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任 講師	Jeremiah L. Hall (41) <令和3年4月>	英会話Ⅰ
兼任 講師	代田 知之 (31) <令和3年4月>	経済学
兼任 講師	杉浦 昭子 (71) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	鈴木 朋子 (58) <令和3年4月>	英語Ⅱ
兼任 講師	染川 智勇 (54) <令和3年4月>	手話技法
兼任 講師	籠 知也 (45) <令和4年4月>	医療経済・制度論
兼任 講師	趙 賢美 (46) <令和2年4月>	韓国語
兼任 講師	中村 光浩 (59) <令和4年4月>	臨床統計解析学 医薬品副作用学
兼任 講師	西川 信廣 (71) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ
兼任 講師	萩原 聡央 (49) <令和3年4月>	法学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 助教	福澤 大樹 (36) <令和5年4月>	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習
兼任 教授	三谷 智子 (66) <令和7年4月>	災害薬学
兼任 講師	有川 幸孝 (67) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	磯村 尚弘 (45) <令和2年4月>	ドイツ語
兼任 講師	井上紳太郎 (72) <令和7年4月>	香粧品学
兼任 講師	井深 宏和 (54) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	衛 紀生 (74) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ※ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ※
兼任 講師	大橋 哲也 (64) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	大脇 弘之 (69) <令和7年4月>	創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任 講師	岡本 秀範 (70) <令和3年4月>	英語Ⅲ
兼任 講師	菅野 進 (74) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	北村 隆幸 (39) <令和2年4月>	ポランテア技法
兼任 講師	坂江 レアンドロ ユウキ (39) <令和4年4月>	ポルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任 講師	Jeremiah L. Hall (41) <令和3年4月>	英会話Ⅰ
兼任 講師	代田 知之 (31) <令和3年4月>	経済学
兼任 講師	杉浦 昭子 (71) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	鈴木 朋子 (58) <令和3年4月>	英語Ⅱ
兼任 講師	染川 智勇 (54) <令和3年4月>	手話技法
兼任 講師	籠 知也 (45) <令和4年4月>	医療経済・制度論
兼任 講師	趙 賢美 (46) <令和2年4月>	韓国語
兼任 講師	中村 光浩 (59) <令和4年4月>	臨床統計解析学 医薬品副作用学
兼任 講師	西川 信廣 (71) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ
兼任 講師	萩原 聡央 (49) <令和3年4月>	法学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 助教	福澤 大樹 (37) <令和5年4月>	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習
兼任 教授	三谷 智子 (67) <令和7年4月>	災害薬学
兼任 講師	有川 幸孝 (68) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	磯村 尚弘 (46) <令和2年4月>	ドイツ語
兼任 講師	井上紳太郎 (73) <令和7年4月>	香粧品学
兼任 講師	井深 宏和 (55) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	衛 紀生 (75) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ※ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ※
兼任 講師	大橋 哲也 (65) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	大脇 弘之 (70) <令和7年4月>	創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任 講師	岡本 秀範 (71) <令和3年4月>	英語Ⅱ
兼任 講師	菅野 進 (75) <令和7年4月>	実践社会薬学
兼任 講師	北村 隆幸 (40) <令和2年4月>	ポランテア技法
兼任 講師	坂江 レアンドロ ユウキ (40) <令和4年4月>	ポルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任 講師	代田 知之 (32) <令和3年4月>	経済学
兼任 講師	杉浦 昭子 (72) <令和7年4月>	薬局経営論 実践社会薬学
兼任 講師	染川 智勇 (55) <令和3年4月>	手話技法
兼任 講師	籠 知也 (46) <令和4年4月>	医療経済・制度論
兼任 講師	趙 賢美 (47) <令和2年4月>	韓国語
兼任 講師	中村 光浩 (60) <令和4年4月>	臨床統計解析学 医薬品副作用学
兼任 講師	西川 信廣 (72) <令和3年4月>	コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅰ コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ
兼任 講師	萩原 聡央 (50) <令和3年4月>	法学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (59) <令和2年4月> 社会慣習・マナー技法
兼任	講師	林 秀樹 (52) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 悟司 (70) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (69) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	山内 康裕 (57) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	吉川 杉生 (64) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (62) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	飯沼 宗和 (75) <令和4年4月> 漢方薬学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (59) <令和2年4月> 社会慣習・マナー技法
兼任	講師	林 秀樹 (52) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 悟司 (70) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (69) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	山内 康裕 (57) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	吉川 杉生 (64) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (62) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	飯沼 宗和 (75) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	杉山 実加 (31) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	原部 長務 (70) <令和2年4月> 健康スポーツ実技

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (60) <令和2年4月> 社会慣習・マナー技法
兼任	講師	林 秀樹 (53) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 悟司 (71) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (70) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	山内 康裕 (58) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	吉川 杉生 (65) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (63) <令和7年4月> 実践社会薬学
兼任	講師	飯沼 宗和 (76) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	杉山 実加 (32) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	原部 長務 (71) <令和2年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	ボイズ ニコラス (38) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	マイケル シャーボーン (40) <令和3年4月> 英会話Ⅰ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。  
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢**を記入してください。  
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

**【令和2年度】**

専任教員については特になし。

**【令和3年度】**

- ・宗林教授の就任が一身上の都合により、令和3年4月から令和3年10月に変更。  
担当授業科目は全て令和3年10月以降の開講科目であることから、教育活動に問題はない。
- ・吉岡講師の就任が滞在先である米国での研究活動継続のため、令和3年4月から令和4年4月に変更。  
担当予定科目の内、令和3年度開講科目である「薬理学Ⅰ」は、稲垣教授に変更（令和2年9月AC教員審査済）。  
その他の担当科目については令和4年度以降の開講科目であることから教育活動に問題はない。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
28 名	14 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
16	10	5	3	34	3	15	10	4	3	32	3
(15)	(10)	(3)	(3)	(31)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
16	10	5	3	34	3	16	10	5	3	34	3
[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]	[±0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：65歳 教授以外：62歳 歳	4 名	10 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{34}{34} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{32} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{34} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。



(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	<p>就任予定教員は、設置計画通りに全員の配置を行った。本年度については、当初の教育計画を履行しながら、定年規程の適切な運用に努め、完成年度以降の体制を見据えた教員組織編制の将来構想を実現できるようにしていく。(2)</p> <p>本年度、将来構想に基づき設置計画どおり助手1名の採用を行った。教授1名の赴任が半年延期となるが、担当授業科目の開講予定が就任時期以降であることから問題はない。また、講師1名の赴任が米国での研究活動継続のため1年延期となったが、担当科目については令和2年9月のAC教員審査を経て承認された代替えの教授が担当するため授業計画に問題はない。今後も、将来を見据えた教員組織体制の充実に努めていく。(3)</p>	<p>准教授以下の専任教員について、完成年度以降に昇任できるよう教育・研究活動の充実をしていく。</p> <p>完成年度中に定年年齢となる教員について、新規に適任者を採用できるよう準備を進め、完成年度後の退職時に遅滞なく更新できるようにする。</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)			

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <薬学部 薬学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>1学期の授業期間 15週 (2)</p> <p>一般入学試験について受験科目を3科目として、うち「化学」「英語」を必須科目とし、「数学」「物理」「生物」から1科目を選択する。大学入学共通テスト試験について、3科目の成績（「化学」「英語」は必須）を評価する。(3)</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前期の講義開始日を4月10日から4月22日以降に変更した。これにより前期の授業期間を15週から13週に変更したが、一部リモート講義を実施することで講義回数に変更せず、シラバスどおりに実施する予定。(2)</p> <p>本学部志願者の多様化をはかるため、本試験形態を残しながら、本学及び本学部教育目的及び本学部アドミッション・ポリシーに照らし満足できる他の試験形態を追加する予定。(3)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教授会の下部組織として、薬学部、看護学部、保健科学部合同による全学のFD・SD委員会を設置して、FD・SD活動に関する推進事項を審議し、実行している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員会委員は、薬学部より2名、看護学部より2名、保健科学部各学科より2名ずつ4名、事務より3名の11名で構成している。委員会は、委員全員の参加のもと、年4回程度開催している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>本学の次の事項を審議する。</p> <p>1)FD・SD推進のための企画及び実施に関すること。</p> <p>2)FD・SDに関する報告書等の作成に関すること。</p> <p>3)その他のFD・SDの推進に関すること。</p>
<p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>令和2年度は下記の内容を実施した。令和3年度については、新型コロナウイルス感染の動向等を勘案しながら研修会等の同様な内容を計画すると共に、授業改善及び発達障害やLGBT等学生の多様化に対応した取組みを強化する計画である。</p> <p>①教職員FD・SD研修会(年2回)</p> <p>②授業評価アンケート</p> <p>③授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施</p>

b 実施方法

- ①教職員FD・SD研修会  
全教職員を対象として2時間程度の研修会を年2回実施する。
- ②FDセミナーへの参加  
オンライン聴講可能なセミナーを選定し、新任教員から希望者を募り派遣する。参加後は、報告会を行う。
- ③授業評価アンケート  
前期・後期の2回、ポータルサイトを通じて実施する。
- ④教員相互の授業参観  
オンライン授業等の状況を勘案しながら、主に新任教員を対象にして実施する。
- ⑤授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施  
事務局から各教員に対し、様式により授業状況等の説明と自己評価を依頼して提出させる。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ①教職員FD・SD研修会(年2回)  
令和2年度は、12/25と3/16の2回、研修会を下記のとおり実施し、ほぼ全教職員が参加した。  
・令和2年12月25日「遠隔授業による学生の学びの変化と今後の対応」  
本学保健科学部放射線技術学科教授 吉田貴博氏  
「新型コロナウイルス感染症とその対策」  
本学薬学部薬学科教授 杉山剛志氏  
「コロナ後の社会」  
元 経済産業省 商務・サービスグループ 政策統括調整官 他 江崎禎英氏  
・令和3年 3月16日「学校法人神野学園の現状と課題」  
本学園理事長 山田弘幸氏  
「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 第3回人材育成プログラム」参加報告  
本学薬学部薬学科教授 伊藤哲朗氏  
「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 第4回人材育成プログラム」参加報告  
本学保健科学部放射線技術学科准教授 井堀亜希子氏
- ②授業評価アンケート  
ポータルサイト上で令和2年度は前期は7～8月、後期は1～2月に入力期間を設け実施した。
- ③授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施  
「授業方法の工夫」「学生への配慮」「学生授業アンケートの対応」の3項目について、各教員が記載し提出した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ①教職員FD・SD研修会(年2回)  
令和2年度は新型コロナに関連して、遠隔授業の効果、医療系大学教職員としてのコロナウイルス知識、コロナ後の社会等を学び教育活動に役立てた。今年度も、教職員共に活用できるテーマを選定し実施して、教育改善に役立てていく。
- ②人材育成プログラムへの参加と報告  
従来、山形大学主催FDセミナー、コンソーシアム京都主催FDセミナーに教員を参加させていたが、中止  
或いはオンラインとなったことから参加をやめ、令和2年度は、地元のネットワーク大学コンソーシアム岐阜  
主催のFDセミナーをオンラインで聴講し、報告会を行って教職員と情報共有した。本年度も同様に、  
オンライン聴講可能なセミナーを受講させ報告会で教職員に共有する。
- ③授業評価アンケート及びそれに基づく各教員のリフレクション(内省)の実施  
「授業方法の工夫」「学生への配慮」「学生授業アンケートの対応」の観点から、授業評価アンケート結果  
を参考にしながら各教員が自己評価を行い授業改善点を明確にして、改善に努めている。  
更に所属長も交え、結果を有効活用するよう計画する。
- ④教員相互の授業参観  
参観後は、所定のアンケート用紙に記載して提出させ、授業担当教員にその結果をフィードバックしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和2年度実施日  
・前期授業対象のアンケート入力期間: 令和2年7月～8月  
・後期授業対象のアンケート入力期間: 令和3年1月～2月  
なお、本年度も同時期に実施する計画である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- 教員への公開  
・担当科目についてポータルサイトにより常時公開している。
- 学生への公開  
・公開期間を決めポータルサイトにおいて公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制
a 委員会の設置状況 (5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)
<b>該当なし</b>
b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)
<b>該当なし</b>
c 委員会の審議事項等
<b>該当なし</b>
d その他
<b>該当なし</b>
② 審議状況
a 審議した内容
<b>該当なし</b>
b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
<b>該当なし</b>
c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
<b>該当なし</b>

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本薬学部は、超高齢社会や地域保健医療に貢献し、臨床現場で主体的に活躍できる、高い倫理観と専門性並びに国際感覚を持つ薬剤師を育成することを教育目的として、ディプロマ・ポリシーを設定した。これを実現するため、カリキュラム・ポリシーを設定し、これに基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本として、本学が保健科学部(臨床検査学科、放射線技術学科)並びに看護学部看護学科を有している特徴を活かし、他学科との充実した地域・チーム医療教育を展開する教育内容としている。更に、科目相互の複合的理解を深める一環した教育体系、高い倫理観及び豊かな人間性を涵養し、自主性やコミュニケーション能力を育む教育体系、国際性を養う教育体系、充実した卒業研究体制を組み込んだ教育内容とし、設置計画通りの教育活動を進めている。また、本薬学部の教育目的及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現するため、薬学教育における専門分野を考慮して、各教育・研究分野に1～3名の教員を配置、臨床薬学分野については7名の実務家教員を配置した。この内、令和3年4月就任予定の教授が一身上の都合により令和3年10月の就任、講師が米国での研究継続を理由に令和4年4月の就任となったが、他の教員は、計画通り就任して教育活動を行っている。なお、就任が遅延となった教員の担当科目の内、令和3年度開講の1科目については、令和2年9月のAC教員審査で承認を受けた教員(教授)が担当する。その他の科目は全て就任時期以降の開講科目であることから、教育活動の上で全く問題はない。実務実習体制についても、計画通り臨床薬学教育センターを設置・運営して、実習運営や教育強化を担っている。更に、全学的な実習調整が行えるよう、「臨地(臨床)実習委員会」を平成30年度より設置し各学科教員及び事務職員から委員を選任し活動していて、これに本薬学部からも参加している。

施設・設備面についても、設置計画通りに整備して運用している。

このように全て問題なく教員配置、教育計画、施設設備計画等を遂行していて、設置の趣旨・目的については十分に達成している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成30年度報告書：公表済
- ・令和元年度報告書：公表済
- ・令和元年度外部評価報告書：公表済
- ・令和2年度報告書：令和3年10月公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定(令和3年10月予定)

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

- ・平成30年10月に評価機関(財)日本高等教育評価機構の評価を受審し適合の判定を受けた。次回は令和7年度に受審の予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
 また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
 なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和3年度)

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法  ウェブサイトへの掲載 ・  その他( ) ]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 岐阜医療科学大学 FD・SD委員会規程

(目的)

第1条 ファカルティ・ディベロップメント(本学における教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)及びスタッフ・ディベロップメント(本学における教育・研究活動へのサービスの質的向上と大学運営の活性化を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「SD」という。)を推進するため、FD・SD委員会(以下「委員会」という。)を設ける。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 委員長 1名
- 二 副委員長 1名
- 三 委員 若干名

(選出)

第3条 委員会の委員長、副委員長及び委員は教授会の議を経て学長が任命する。

(委員長等の職務)

第4条 委員長は、委員会を主宰し、その運営にあたる。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代行する。

(任期)

第5条 委員長、副委員長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第6条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 FD・SD推進のための企画及び実施に関すること
- 二 FD・SDに関する報告書等の作成に関すること
- 三 その他FD・SDの推進に関すること

(重要事項の取扱い)

第7条 委員会で審議された事項のうち重要な内容は教授会に諮るものとする。

(事務)

第8条 委員会の事務は委員会で所掌するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。